

令和6年度第1回白井市総合計画審議会

議事概要

日 時：令和6年8月19日（月）午後2時00分から午後5時00分まで

場 所：白井市役所本庁舎2階災害対策室2・3

出席者：【委員】

関谷昇会長、飛田毅委員、松井利一委員、宇津野嘉彦委員、林陽子委員、
亀山二三雄委員、山崎新一委員、佐野由加里委員、瀬口千恵子委員
鈴木理恵委員

【事務局】

板橋企画財政部長、齋藤主査補、多納主査補、高橋主任主事、菅原主任主事
傍聴者 3名

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

（1）白井市第6次総合計画 基本構想及び基本計画の諮問について

（笠井市長から総合計画審議会の関谷会長へ諮問し諮問書を交付した。）

（2）各種アンケート調査等の結果について

○会長 議題2について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 （資料に沿って説明）

○会長 ありがとうございました。今、事務局のほうから、これまで実施された各種アンケートの調査結果と、それから白井市の現段階での特徴とか課題等々について報告をいただきました。今後の総合計画基本構想をめぐる御意見等については、また次の議題でいろいろ御意見を頂戴したいと思いますので、まず今、事務局のほうから説明があった調査結果の報告、このことについて、これがまだよく分からないとか、これはもうちょっと詳しく教えてほしいとかいうこと、どんなことでも構いませんし、どの箇所からでも構いませんので、御質問等があればお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

○委員 交通問題で質問をしたいのですが、白井市は工業団地を抱えています。ですけれども、ここに入ってくる道が、多分、僕が知っている限りで1本しかないのですよ。富塚だったかな、あの辺から入るやつが1本しかない。木下街道は、昔は大型が通っていたのですけれども、今はたしか通れないと。工業団地入るのに、どうするのだということで、柏との境の田んぼのところの新規に造っていますので、それがもう1本の道かなと思うのですけれども。北千葉道路が開通したときに、その工業団地に抜けるのは、どこ通っ

たらしいのかなということを疑問に思っているのです、その辺を研究していきたいと思っています。

○会長 今の御質問について、情報があればお願いしたいと思います。

○事務局 市の大きな話なので、私のほうからお答えしたいと思います。

今、委員おっしゃるとおり、富塚のほうから入ってくる道路が1本ありますけれども、アクセス道路というのを多分、御存じかと思いますが、今、造っています。なかなか地盤が軟弱だったり、土地が買収できなかったりして相当苦戦はしているのですけれども、供用開始を目指して、暫定形状になってしまうのですけれども、たしか9年だと思います、令和9年度に供用開始を目指して今やっています。それができれば改善がされてくるのかなと考えております。

以上です。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 デジタル化の話があったと思うのですけれども、一番最初の資料2の1ページのところで、アンケートを取られたところで、白井市の住民意識調査が前回より伸びたのは、ウェブがあったからじゃないかというお話がありましたが、若い世代の二つが低いのは、ここもウェブで、これも取ったのでしょうかということを1点お聞きしたいです。

○事務局 ご質問ありがとうございます。

委員から御質問頂いた若い世代アンケート、あと高校生アンケートですね。若い世代に関しては、紙もインターネットも両方やっています。高校生に関しては、ウェブでのみ、やっています。この回答率になってしまったので、どちらかといえば、世代的になかなか若い世代、住民意識調査もそうですけれども、ある程度、上の層になっていただけると回答いただきやすい部分もございますので、そういったところで回答率の差が出たのかなとは思っております。

以上です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかの委員の皆様、どうでしょうか。

○委員 若い世代の流出なのですけれども、自分も以前、教員やった経験からなのですけれども、仕事の面とか大学進学とかの面で、隣の県、隣の都とか、そういったところに流出するのは、やむを得ないかなと思っています。子供たちもそうですけれども、親御さんたちも、結局、子供に残してやれるのは、そういった学力をつけて、それを生かす場面が欲しいということが、ひしひしと教員をやりながら感じたところです。逆に考えると、そういった外部に出ても、言わば白井出身の子が力を発揮しているのだということを見せてやりたいというか、そういう力をつけてあげたいなと。

このアンケートの中に教育の項目が幾つかありましたけれども、自分が教員だったのは、もう10年前なので、その間に非常に教育内容と指導内容も非常に変わっていることは、外

部からしか分からないのですけれども、外に出ても力を発揮できるような、そういった教育を進めていければなと思っていますところ。

白井から、できれば通える範囲ということで、何を言いたいかというと、鉄道の、さらに料金だけじゃなくて、例えば急行とか特急が止まれる市になってもらいたいなど。つまり、そういう本数を増やして、ここから通える、せいぜい大学だと2時間以内に通えるような、そういった交通システムを確立してもらえないかなというところ。

以上です。

○会長 その点、お願いいたします。

○事務局 お答えします。

おっしゃるとおり、これまでの第5次総合計画基本構想では、あまり教育という部分をうたってこなかったという側面がございまして、資料5の2枚目の各班長たちのワークショップでまとめたときに、挑戦という項目で、育ち・学びへの挑戦という部分が出てきて、白井市ならではの独自のそういった教育の分野に力を入れていくという挑戦が必要なのではないかといったことが出ております。

また、近くにデータセンターとかの建設もありまして、どうやらSEさんとかが、よく出入りするようになるみたいなので、連携して、例えば、そういったデジタル的な教育とか、そういった特色のある教育とか、そういった部分を考えていけたらなと考えているところ。その具体的なところについては、この基本構想の後ろに紐づいている基本計画のほう、次のステップですね、また具体的に取組を示す必要があるというのが現状です。

特急については、主体が北総鉄道さんのほうなので、市のほうでどこまでできるのかというのはあるのですけれども、やはりニーズに基づいて、そういった部分は考えていらっしゃると思いますので、こちら白井市がどのようにニーズを伸ばしていけるか、そういった部分に関係があるところなのかなというふうに認識しております。

以上です。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 お疲れさまです。

昨年、委員会でアンケートの件で発言した内容に傍聴人の方から大きな御指摘をいただいたのですが、私の意見というのは、桜台地区に住んでいて、私見なのです、私の価値観での意見ですので、そこは傍聴人さんのお考えとか、ほかの委員とちょっと違っていてもいいと思います。

私は桜台に住んでいます。最寄り駅は千葉ニュータウン中央駅です。子供は3人いまして、桜台の小学校、中学校、その前に桜台保育園。小学校、中学校と、市の保育園でも大変子供がお世話になって、当時保育園にすぐに入れました。後で調べてほしいのですが、現況、保育園の待機率とか何か分かりましたら、後で教えてほしい。当時20年前、非常に保育園に入れないという。私、船橋から来たのですが、白井に来て何がよかったかとい

うと、保育園に簡単に入れたこと。また、保育園の職員が非常によく園児に接してくれました。

あと、下の双子の娘は4回生。この子たちが毎回1か月ごとに白井に帰ってくるのですよ。高校は宇都宮の高校に行っているんで、スポーツで入ったのですけれども、彼女たちは日本全国、インターハイや大学ではインカレであったり、東日本大会、西日本大会、全日本大会というのを回っていて、お父さん、白井はいいよって言うのですよ。帰ってきたい、非常にいいって言っています、彼女たち。最近、帰ってきたら、お父さん、子供ができたなら、私、働きたいから、ちゃんと子供見てくれますかという話で、いいよと言ったのですが、子育ての中で、一緒に子供、孫を育てられるというのは、すばらしいかなと思っています。

保育園の件、また、小・中については、非常にお世話になったので、特にありません。ただ、一つ、高校だけが、高校、大学、専門学校等が地域、近くに、白井とは言いません、印西でもいいですし、近隣に専門学校であったり高校、大学はともかくとしても、そういうものがあれば魅力があるのかな白井、ということでございます。

アンケートについてなのですが、これは、アンケート原文のまま反映されているかどうか分かりませんが、変換の間違いというか、何か所かあったので、これはそのまま、原文のままだったのでしょうかね。これを公にするのだったら、直したほうがいいかなというのが。後でまた、こここのところの変換、違うんじゃないかというお話をさせていただきます。

そういうところ、長くなりましたけれども、アンケートの作成、お疲れさまでした。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○事務局 私のほうから。待機児童のお話を今、委員していただいたので、その辺りのお話。今後、恐らく来月の頭に出てくるであろう事務事業評価シートの中にも、待機児童数の話は出ておりまして。委員さんは率でお話をされていたかと思うのですが、年度当初での待機児童数で6名、待機児童という定義に当てはまるものとしては、市内全域で6名という形になっていましたので、率としては、そんなに大きくないような形になっていると思います。

○委員 公立の保育園だけですか。

○事務局 私立も含めてだったと思います。

○委員 改めて、先ほど高校の件で一つ。北総線が値下げされましたよね。それで、白井高校の入学希望という方が増えているそうです。一応、その辺も影響しているのかなと思っていますので、一層、値段を下げてほしいなと思っています。

○会長 この住民意識調査等々の結果をめぐって、ほかに何か確認しておきたいこととかございましたら、御発言お願いできればと思います。骨子の中で、こういうことを盛り込

むべきだとか、そういう御意見、次の議題でいろいろな角度から頂戴したいと思いますので、この調査結果の中で、もし御不明な点、あるいは確認しておきたい点がありましたら、お願いをしたいと思います。

○委員 もう1点、すいません、長くて申し訳ない。アンケートの白井市住民意識調査の3の1、あなたが市外に移住する可能性がある理由は何ですかというところで、念のためなのですが、11で130、41.8%って回答あるので、この御回答された方は、移住するという予定がないという読み込みでいいのですか。それと、1から10の間に当てはまる回答がないために、この130って方がいらっしゃるのですか。この辺の分析は、どのようにお考えになったかというところを教えてくださいなと思います。場所は分かりますか。3の2ですか。白井市住民意識調査。

○事務局 3の2のあなたが市外に移住する可能性がある理由は何ですかですね。

○委員 それで、その他の130って、41%で非常に多いですね。逆に、僕のほうから見れば、移住する必要がないということなのかなと読んだのですが。それとも、1から10の間に該当する文言がなかったのかなというところ、ここですね。そこを分析されているのかなと。

○事務局 事務局から御説明させていただきます。こちら、3の1、3の2なのですが、問3のところで、住み続けたいと回答した人が3の1を回答していただいている、2番目の移住する可能性があるですか、移住したいというような回答をされた方が3の2を回答しているみたいなのになってございますので、基本的には、3の2に関しては、移住する可能性がある、ないし移住したいと考えた方が、こういった回答をしていたのが、その他は自由記載で回答していただいたものが、まだ単純集計段階ですので、細かい分析ができていないというところです。

○委員 回答数が多いので、これ読み違えて、ここを書いたのかなとか思ったのですが、そういうことですね、2段階ですもんね。移住するというところの回答者でいいものが回答しているのかなと僕は勝手に思った。結果的には、僕は満足しています。ありがとうございます。

○事務局 失礼しました。先ほど、3のほうの3番も含めるという話をしちゃったのですが、正確には、問3で2を回答された方だけが、問いの3の2を答えているということです、すいません。

○会長 ほかにはいかがでしょう。

なかなかアンケート調査結果への質問とあって、しづらいところもあるかもしれませんが、次の議題の御意見のほうがもし出しやすければ、そちらのほうの時間を少し取ればなというふうにも思いますけれども、この段階で、もし何か確認しておきたいということがありましたら、お願いしたいと思います。

私から一つ、大きな意味での動向をお聞きしたいのですけれども、白井市は明らかに、

先ほど市長のお話にもありましたけれども、ニュータウン開発が一段落をして、これから、もうポストニュータウンというふうな方向になるというか、段階に入ってきていると。これは、要するに開発がメインだった時代というのは、どんどんマンションなり何なりというのも建てていく。だからこそ、そういう意味での人口もどんどん増えていく、増やしていくというふうな流れが前提となっていたと。

でも、ポストニュータウンとなっていくと、そういう開発型で、言わば量を増やしていくということが、もう物理的な限界を迎えていく。限界というか、そういうところに重点を置くのではなくて、もっと違った在り方というものを模索していくということが問われている。だから、従来の開発型のまちづくりというものとは異なる方向というものが出てくる。それがどういう方向なのかということは、必ずしも確定できていなく、それは今後、模索しながら、いろんなことを考えていかなきゃいけない、仕掛けていかなきゃいけないわけですが、とにかくポストニュータウンというふうな段階に入ってきているということを白井の住民の皆さん、どれぐらい感覚的に感じているのかというのは、これまでのこのアンケート調査とか各種ワークショップの中で、何か特徴的な意見というか、動向というのは見られましたでしょうか。

○事務局 お答えします。ワークショップに参加されている方で、自分の印象としては、やっぱり白井市のことが好きな方がよく集まっているなということで、いろいろ市のことを考えてこられて、ワークショップに挑んでいただいているなというふうに思います。

その中で、人口についてなのですけれども、ワークショップの結果で、やっぱりどうしても自分のニーズで、こういったショッピングモールが欲しいとか、そういった意見が多く上げられてしまうのがワークショップの特徴なのですけれども、そういった意見よりも、他市に、そういったものは買物をして、白井市は白井市のよさを生かして発展していけばいいんじゃないかという意見があったので、それで、白井市らしさというのは何かというと、必ずしも人口をどんどん増加させればいいというものではないのかなという意見もありました。なので、そこら辺が、今、会長がおっしゃっている部分に近い部分なのかなというふうには考えているところであります。

○会長 なかなかくっきりした動向が出てきているということではなく、今は移行期ですから、多分、いろいろな思い、いろいろな考え方をされる方が多いとは思うのですけれども、大きな流れ、うねりでいうと、これまでのような人口増加ということは、なかなか難しくなってくるという流れ。それから、いろいろなものがあつたほうがいいよね、利便性も高まる、いろいろな買物できるところ多いほうがいいよねって、これは多分、従来の感覚、価値観の中で出てきている。もちろん、そういうものがあるに越したことはないのだけれども、なかなかその辺が難しいということが、これからどんどん出てくる中で、市民として、どんなニーズ、考え方が出てくるのかというのは念頭に置きながら、構造計画というのは考えていく必要があつて。

今も御指摘されたように、あれもこれも造るということではなくて、白井のよさを生かしていくという場合の、その白井のよさって何なのかというのは、価値をまだまだ自覚できていなかったりもしますので、そのよさということも、どんどん浮き彫りにさせながら、それを本当に生かすというのは、どういうことなのかという、そういう視点で多分、考えていく必要もあるかと思いますので。

いろいろワークショップの結果見ていくと、段階的にいろいろなこういうのが出てきて、従来とも違う傾向も出てきてはいますので、それも確認しておけるといいのかなというふうに思います。

ほかに御質問等ございますでしょうか。大丈夫なようでしたら、取りあえず意識調査に対する質問等については、一旦ここで一区切りにさせていただきます。

どうぞ。

○委員 先ほど、外国人の増加、国別出ていたので、白井市のデータって入っていましたか。白井市の外国人、特に工業団地辺りとか、外国人の方が多かったりしているので、白井市の外国人の増加というか、人口増加が分かればと思います。

○事務局 お答えします。白井市の外国人増加のデータ自体はあるのですが、今この場に御用意していないので、また後日、御回答させていただく形でよろしいでしょうか。

○委員 はい、次回でいいです。

関連なのですが、船橋市は外国人が多くて、小中学校で言葉の関係で混乱しているという事例があるので、今後10年後に、外国人として、子供たちが小学校、中学校上がったときに、そういう言葉のトラブル等あるかなということで、船橋市を前例にして質問させていただきました。

○事務局 かしこまりました。

○委員 ありがとうございます。

○会長 その点は、後日、改めて御提供いただければと思います。

この議題の(2)については、取りあえず一旦ここまでというふうにさせていただきます。この後、10分間の休憩を挟んだ後、再開させていただきます。

(3) 総合計画基本構想の骨子(案)について

○会長 議題3について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 (資料に沿って説明)

○会長 ありがとうございます。今、事務局のほうから資料6に基づいて、この第6次の総合計画基本構想の骨子について、説明をしていただきました。この後は、この骨子(案)について、皆様のほうから御質問、御意見を頂戴できればと思います。

ちなみに、この総合計画審議会、次回は10月の23日を予定しておりますので、後でまた説明あると思いますけれども、11月にパブリックコメントを予定しているというところで

すので、いろいろ意見申し上げて、内部で検討していただくということを考えると。今日いろいろ御指摘いただくと、またいろいろ検討につないでいただけるというところもあるかと思いますので、忌憚のない御意見、頂戴できればと思います。

一応、今、まちづくりの基本理念、それから、市民との3つの「白井市」の追求ということで、今後の10年間で対応すべき課題ということ。そして、先ほど報告いただいた各種アンケート調査、市民の意見を踏まえた上での課題出しというものがあって、それを踏まえた上での10年後の白井の将来像、それを実現するための取組・推進の考え方、計画フレームというふうな形で説明いただきました。ちょっと分かりづらいところもあるかもしれませんが、それぞれの立場から、気になっている点とかあれば、どんな細かいことでも構いませんので、御指摘をいただければと思います。

お願いします。

○委員 よろしく願いいたします。

白井市と、鎌ヶ谷市と、印西市と、やっぱり差がきちんとしていたほうが私はいいんじゃないかなというふうに思います。そういう意味では、白井市のアイデンティティをどこに置くのかということで、これまでの第5次の「ときめきと みどりあふれる 快活都市」というのも、すごくいい言葉で、スローガンですけども、それに鎌ヶ谷市がこういうふうにつくっても同じだろうと思いますし、印西は若干違うかもしれませんが、やっぱり白井市が一番訴えたいもの、強みとすべきものというのを議論をして。

先ほどのワークショップの中で、いろいろなテーマが出ておられていると思いますけれども、どうしても行政ですから、こういう「安全・安心」、「健全・健康」とか、「便利・快適」とかという言葉に集約されていっちゃうわけですよ。だけど、それは、そのとおりなですけども、その中でも、白井市はこれにアイデンティティをはっきりさせて、力を入れるのだ、少ない行政財政の中から、これを売りにするのだというようなものがまとまっていくと、県のほうから、国のほうから、どちらかというとマスコミの受けが、やっぱり数多く報道されるようになれば、県も注目しますし、国も注目すると、財政の問題も少しずつ解決していく。そんなものを考え方の上に加えていただけたらいいんじゃないかなというふうにこれを見て思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。なかなか難しいところかと思いますが、今の御意見、非常に白井のアイデンティティというのをクリアにすべきだという御指摘ですけども、事務局のほうからは何か。

○事務局 貴重な意見ありがとうございます。確かに、現在としては、あれもこれもになってしまって、結構いろいろと幅広くといいますか、そういった部分がどうしてもなっちゃう部分もありまして。

また、ワークショップとかアンケート、それを幅広くやると、よりいろいろな意見があ

って、いろいろと平準化されてしまうという部分は確かにおっしゃるとおりでして。その中でも、白井市は何を特化したいのか、何にとがりたいのかという、その部分はやっぱり明確にする必要って確かにあると考えています。

それで、一応まとめた部分が、4番の課題から導いた白井市の目指すべきまちということで、その中でも六つにまとめさせていただいております、この1から6ですね。新しい産業、あと、若い世代が定住、白井らしい環境、学び育ち、災害、交流し支え合うまち、こちらを特化していきたいと考えているところです。

次のページの10年後の将来像で、サブスローガンのところに、下に挑戦するとか、らしさを守るといふところが書かせていただいているのですけれども、こちらサブスローガンとか考える上で、ワークショップで出てきたワードでして。この挑戦と守り。挑戦するって、何かを例えば開発していったら、それだけ失うものもあるのですけれども、ただ、それで白井らしさが失われちゃいけないよねというところで、らしさを守りながらも挑戦するというメリハリをつけて。今後、これから計画のほうで具体的な取組を設定していきますけれども、ここを念頭に踏まえた上で取組は設定して、構想の下の基本計画のほう、こちらのほうに考えを反映できたらいいかと考えているところです。

以上です。

○会長 今日、集約する段階ではありませんので、どんどん疑問に思ったこととか、ここ、もうちょっとこうしたい方がいいんじゃないかというような御指摘どんどん頂ければと思いますので。

この理念の部分については、だんだん後に行くにつれて具体化されていくということかとは思いますが、でも、見方によっては、さらにクリアになる表現、言葉があるんじゃないかというふうにも言えますので、それは、また引き続き、いろいろ皆さんのほうからもアイデア頂ければと思いますけれども。今、一つ御指摘いただいた、非常に大事だと思いますので、引き続き、その辺は御意見を頂戴できればと思います。

ほかにいかがでしょうか。

お願いします。

○委員 その将来像の決定のところなのですが、候補を市内小・中学生にタブレットで投票してもらい決定するというふうにありました。これは、この小・中学生のみが、この決定に関わるという意味でよろしいのでしょうか。決定方法です。というのは、これからの先ということで考えると、例えば高校生だったりとか、大学生だったりとか、そういう若い世代というのも戻ってくるとか、将来に関わるという部分では大きいかなと思うのです。その辺りは対象にならないのかなというところを聞きたかったです。

○委員 補足でいいですか。先ほど、アンケートも聞いた小・中学生、10年後を見据えていたと思うのですが、果たして小・中学生が理解できるかな、想像できるかな、現実とね。今、委員がおっしゃられたように、高校生、大学生を何とか、年齢ですね、大学

生といわずに、年齢、二十歳前後、こちらで一緒に住む、白井に住むのだよという意見を聞いたほうが効果的では。小・中学生だと、私も子供を育てて、やはり年齢とともに意見が違います。おっしゃるように、二十歳前後の方を求めたほうが現実的かなと思います。

以上です。

○事務局 小中にこだわったのは、今、学校にタブレットがあるので、アンケートしやすいというところです。

ただ、確かにおっしゃるとおり、高校生、大学生、二十歳前後とか、どこまでするかというのを、どうやって取るか、その人たちのスマホでも、何かそういう方法を考えてはみたいと思います。これお約束、必ずこうできますとは、この場では、まだ方法が浮かばないのですけれども、例えばQRコードをホームページか何かに貼ってやることは当然できるのですけれども、回収率という点では、ちょっと難が出てくるのかなと思っています。その辺は、事務局のほうで検討させていただきたいと思います。

○委員 それに関しては、駅とかの利用が若い方って多いのかなと思っています。なので、そういった駅を利用するとか、そういったところもありなのかなと思いました。

○事務局 分かりました。ありがとうございます。

○会長 ほかにはいかがでしょう。

○委員 私自身がいまいち、この構想というものをしっかり理解していないので、こういう疑問が生まれるかどうかは分からないのですけれども。今ずっと通して伺った時点で、基本構想ということで、市民がいかに満足できるかということに着目されていると思うのですけれども、もう一つ、市民が満足すると同時に、新陳代謝が行われなければ、市というのは、自治体というものは発展しないと思うのです。このままで、縮小していく中で、白井に私は1年半前に都内から引っ越してきたのですけれども、すごく高齢化というものが、お年寄りが多いなというのが率直な印象なのです。

それは、先ほど分かったのですけれども、四十何年前にニュータウンができて、そこから硬直状態で、また北総線がとても高い。私も1週間に1回ぐらいは都内に買物に行くのですけれども、とても高い。あと、成田も羽田も年に何度か利用しますが、成田に行くのが、早朝なんか、まず電車がないとか。子供たちは全くここで育っていないので、遊びには来ます。リモートのときは、都内より環境がいいので、うちでリモートしていますが、住むという発想にはならないのです。でも、その新陳代謝を行うためには、外部から人が入ってきてくれなくてはいけないと思うのです。これは、市民の満足だけではなく。

そういうときに、じゃあ、なぜ白井に住みたくないのか。1週間に1回来る分にはいいけれども、具体的に言えば、都内に勤めているので、なかなかやっぱり北総線のこと、定期は会社が出してくれますが、利便性、高砂で無駄に5分止まるとか、5分止まったら、どれだけ行くのかということになっちゃうのです。都内で育っていると。

ですので、市民の満足と新陳代謝を行うためには、どのような魅力を外に伝えていき、

また、外部の意見というのも、外部の若い人の意見というのも重要なんじゃないかな。その視点が抜けているのではないかなと思うと同時に、この計画の中では、その辺は必要なのかどうかというところがまだ判断できないので、どういうふうに考えていっていいのかというところが、2本柱で考えるべきなんじゃないかなというのが私の考えなのですけれども。

○事務局 すいません、答えになっているかどうか分からないのですが、今、何点かお話があって、一つ、一番大きなのが人口の話なのかなと。私たちもそこはすごく着目していて、日本全体が人口減少していく中で、白井市だけ増加、すごく増すというのが難しいというのは実態だと思っています。

ただ、この最後のページに書いてあるとおり、このままいったら5万9,000だということを、どうやって上げていくのだということが、この次の計画のほうになって落ちてくるのだと思っているのですね。

今回、ここら辺りも、例えば、新しい産業が栄えるまちですとか、若い世代が定住するまちというポイントが、目指すべきまちの2つのところに落ちています。これがどれだけ人口を増やすかということは、なかなかここでは簡単には言えないのですが、今、委員がおっしゃったことというのは当然踏まえて、伝わっていないのかもしれませんが、そこは、もう人口落ちたままでいいんだよとか、そういうことで私たちは考えているわけではないということは御理解いただきたいなと思います。

以上です。

○会長 その辺の人口の規模感というのは、なかなか難しいところがありますし、考え方も、またいろいろなところがあって、まちによっては、もう無理に増やす必要はないのだというふうにして考えていくまちもありますし、とにかく人口が減るということは駄目なことなのだから、とにかく増やしていかなきゃいけないというふうな考え方、比較的多いのですが、そういう考え方もあるし、今、御指摘があったように、新陳代謝ですよ、そういう。もちろん外に出ていってしまうところもあるけれども、外からどんどん来てもらうというふうな部分。

それから、この中にはありませんけれども、例えば交流人口のような、そういう、この白井と関係を持ってくれるような層、人たちをもっと増やしていく。そういうふうなことも含めた形で人口的規模感ということを考えていく必要があるでしょうから、これ、また今後、詰めていく課題だとは思いますが、そういう中で捉えていく話なのかなというふうには思っています。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 文言は、この今の案で基本的には、確定は多分まだしていないとは思いますが、1点気になるところがあって、市民との3つの「白井市」の追及という部分です

ね。これ、ページがちょっと変わっているんで、一瞬、3つはどこにあるのだというのを紙、探しちゃったのですけれども、その前の、まちづくりの基本理念のところの下のほうに書いてある、この3つの部分を指すのだと思うのですけれども、3つの「白井市」という言い方を、私、分からないのですけれども、違う言い方、何かないのかなという。3つの「白井市」と言われて、ぴんと来ないかなというのが私は思ったので、その前の、この安全・安心な白井市、健全・健康な白井市、便利で快適な白井市というのをもうちょっと大きく出していただくとか、最終的に、こういう冊子に集約されるのだらうというのは分かるので、突然ここで、3つのと出てきた印象がすごくあったので、これは何か違う言い方に、もし変えられるのであれば、何かいい案を出していただいてというふうには、ちょっと思いました。ありがとうございます。

○事務局 貴重な御指摘ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、ここについては、もっと分かりやすい表現、模索して、次、骨子の上の素案を10月に御提出いたしますけれども、そのときに、うまく伝わりやすい、分かりやすいような表現を考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 先ほど、アンケートを探したのですけれども、見つからなかったのですけれども、人口の世帯人数は減ったけれども、世帯数が上がっているというデータありましたよね。僕は、これプラスに考えて、これからの子育て世代という、出産世代かなと取ってしまったのですが、世帯数は増えたけれども世帯人数は減った、これは分かりますよね。子供たちが30年、40年たって外に出ていますから。世帯数が増えたって、高齢者が入ってきたのか、若年層が入ってきたかは分からないでしょう。次回でも結構ですから、その辺の、僕は人口増えるんじゃないかというような読み切りをしたのね。世帯人口が減ったけれども世帯数が増えたということは、一人世帯もあるのですけれども、僕が勝手に読み取ったのかもしれないです。世帯人口が増えている。高齢者がいっぱい入ってきたのか、若い人たちが入ってきたというのをデータがあったら、次回、教えていただければと思います。

以上です。

○事務局 事務局から御説明をさせていただきます。

人口のところに関しては、今後、総合計画審議会に、総合計画にも関係する、まち・ひと・しごとの総合戦略の関係の審議会もございまして、そちらのほうで、また人口ビジョンというところをもんで、さらに、そのものを総計のほうにも反映していくような形をしていくのですけれども。まだ現状、粗々な分析な部分ではございますけれども、世帯人数が想定よりも減っている原因として、まずニュータウンとしての特性上、皆様も感じられている部分かとは思いますが、親世代の方が現状残られている。子供世代は出ていかれているというところで世帯人数が減っているのが一つ。

あと、ライフスタイルの変化というところですけども、若い世代の方が、親元から出

ていく場合もあれば、親御さんは、それこそ施設に入られているけれども、お子さんだけ単身で残られているみたいな形で、残ってはいらっしゃるのだけれども、所帯を持っていない。お子さんはいらっしゃらない。それこそ多様性の時代ですので、結婚しないというライフスタイルの選び方というところもあるかと思うのですけれども、そういった意味での単身世帯も増えているというような複合的な要素がありまして、今までどおり、ファミリー層が入ってきて、子供を育ててというようなところから、ちょっと崩れてきていて、ファミリー層で想定していた世帯人員数よりかは、全体的に世帯人員数が減っているという状況があるというところまでは把握している。細かな数字と、あと、実際どういうエリアで、どういうふうに、そういう構成になっているのかというところまで、まだ細かく分析できていない部分もあるのですけれども、その辺りは、また今後お示しできればなどは考えております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかによろしいでしょうか。

○委員 まちづくりの基本理念のところ、まちづくりというと、まち協のことがすぐ、まちづくり協議会ですか、思い浮かぶのですけれども、なかなか設置できない地域もあるようですけれども、結局、問題点は何かというと、自治会とか、地区社協とか、防災関係とか、ごちゃごちゃしているというか。結局ある地域を見ると、まち協のチーフも、自治会のその地域のチーフも、地区社協のチーフも、皆同じ人とかというところもあるし、そうすると、やっていることは、そんなに大差はないので、今言った、少なくとも4つを整理して、どこの地域でもできるような、まち協ですか、できるような、そういった市にしてもらいたいなど。そうすると、市長が考えているようなまちづくりの構想、そちらのほうに向いていくんじゃないかなというふうに思っています。

それから、追求すべき価値観とか、狙っている白井市に関してですけれども、自分としては、学びを大切に、ほっとできるまちでいてほしいなというふうに思っています。合っているか分からないけれども、ベッドタウン的な市というか、都会でもなくて、さりとて田舎でもないような、ちょっと変わった市というか、ほっとできる市にしてもらいたいなど、したいなというふうに思っています。

さっき、学びを大切にしようというのは、外国の方も増えているので、その方々も含めて、一生涯、学校だけじゃなくて、学べるような場があるといいかなというふうに思っています。

あと、これは、できるかどうか分からないけれども、市民全体に、これだけは守ってほしいと、特に大人なのですけれども、学校とかそういうところで学んで、道徳的なことなのですけれども、いざ一歩外へ出ると、大人がそのようにやっていないと。例えば、信号一つにしても、吸い殻とか空き缶にしても、目の前で捨てたり、ルールを守っていない。そういったことも含めて教育という意味なのですけれども、大人が子供に手本を示してい

る市と、一つだけでも見本を示せるようなことがあればいいなというふうに思っています。
以上です。

○事務局 お答えさせていただきます。

まず、こちらの構想のほうで、9ページ、多様な主体との連携・協働によるまちづくりというところで、一応これまでの考えの市民と行政との参加・協働というのも生かした計画にしたいと思っておりますので、この後ろに反映されます計画のほうで、より具体的にお示しして、それと役割の明確化とか、そういった面での課題については記載していけたらと考えているところです。

また、学びについては、第6次では結構、第5次と違う点として力を入れていきたいという部分もありまして、4番の目指すべきまちに、学び挑戦できるまちとうたっておりますので、これを根拠に、事業のほうに反映できたらというふうに考えているところです。

以上です。

○会長 なかなか、そのつながりをどういうふうに見ていけばいいのかという難しさはありますけれども、この部分だけだと、なかなかイメージが膨らみづらいところもあるかもしれませんけれども、今後、基本計画を含めて、その辺は肉づけされていくかと思しますので、その中で、ぜひ、その辺もまた少し深掘りできればなというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 6の将来像を実現するための取組と推進の考え方というところで、いわゆるデータをベースにしながら作り上げていくということと、それから、ロジックモデルと書いてある。こうやって、いろんな課題を集約しながら作り上げていくという方法があるのだろうと思いますけれども、もちろん、今、いろいろな市町村で人口の増えているところありますよね。それから、人気が出ているまちもありますよね。そういうところの事例というのは、いっぱい調査されていると思いますけれども、そういう中で、それぞれの仕分け、ここの市町村は何で人口が増えているのか、この市町村は、なぜ人気があるのかというようなことの分析と、それから白井市のどこかのグループワークであったと思いますけれども、分析を、やはり客観的なデータと、そういう先行する市町村の情報等というのを組み合わせながら、両方のやり方がいいのか、どっちかに絞ったほうがいいのか分かりませんが、そういうような組み合わせをしながら、当然ながら、専門家のいろいろなアドバイスもお受けになって、こういうものを作られているでしょうけれども、そういう中にエピソードを生み出していくというのですかね。そうすると、片っぽで強みと弱みだとか、環境だとか、そういうもののデータを客観的に見ていって、それで、一方で先行している市町村の情報を組み合わせるといようなやり方でまとめていったほうが、言葉遊びにならなくて済むんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひ参考にさせていただけたらと。

○事務局 事務局がお答えします。おっしゃるとおりだと思います。なので、この辺のエビデンスを基に分析して、どのような人口にしていくかというところは、当然おっしゃるとおりだと思いますし、また、どういった方に来てほしいかというふうな、そういった視点も踏まえた上で考えていきたいというふうに考えております。

○会長 この辺、客観的なデータ分析ももちろん必要ですし、やっぱりまちづくりのそれぞれのテーマのコンセプトでしょうかね、それとどういうふうに結びつけていくのかという、ある種の戦略性の話にもなってくると思います。例えば、誰かも申し上げましたけれども、流山が今、子育て支援で活発になっているというのは、これはやっぱりある種の戦略性の下になされていると。つまり、共働きで年収1,500万の層をターゲットにして、その層に受けるまちづくりになっているわけです。これ、いいかどうかは、いろいろな判断がもちろんありますし、それが白井でやるべきなのかというと、多分ちょっと違ってくるというところもありますけれども、それは、一つのマーケティング分析を踏まえた戦略なのですよね。だから、この戦略ということが、白井の中でなかなか見えてこないということは、この総計審でもずっと言われてきているところではあるのですけれども、その辺の戦略性というのを、どうこの中に立てていけるかどうかというのは、すごく大きな課題かと思しますので、私も大事な御意見かなというふうには思います。

このエビデンススペースの話とかロジックモデルというのは、そういう意味では、これ言い方変えると、要するに、戦略的に物事を動かしていくと。駄目であれば変えると。更なる効果を出すためには、どういう仕掛けをしなきゃいけないのかというふうなことを評価とともに積み重ねていくというふうな話かと思しますので、ぜひ、そういう立てつけにしていいただければなというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 情報でもいいですか。

○会長 もちろんです。

○委員 今の流山の件で、私も常々思うことがあったのですが、一つ特徴として、千葉ニュータウンというのは、今、印西市というのは脚光を浴びていると思うのですね。私が何年か前にゴルフの試合があって、間違って印西、牧の原かな、あそこに出てしまったのですね。そのときに、これが有名なジョイフル本田なんだと思ったのですが、隣のニュータウン中央まで行って、電車に乗ろうとしたときに、遠くて、また諦めたのですけれども、そのとき思ったのが、千葉ニュータウン中央というのは、アメリカ社会だと思ったのです。アメリカというのは、ロードサイドに商業施設がありまして、全部車なのです。

私が白井に決めたのは、真逆で、うちはずっと車を持っていないので、白井は車がなくても最低限のお買物もできるし、ニュータウン内は歩道がきちっと。それがちょっと外れるととっても怖い状況で、ギャップがあるのですが、最低限。あと、東京により、千葉ニ

ュータウン中央より近いというのが結局あるのですけれども。けど、駅前がさびれている、昔はもっと栄えていたというのを伺いました。

1年半ぐらい住んでいると、ロードサイドに、こちらも駅から遠いところに、いろいろな大きなスーパーがあつたりとかあるのですが、これからの高齢社会と、あと子供にも優しいというのは、歩いて全部ができるまちだと思うのですね。なので、ロードサイドではなくて、これは、自治体のほうの協力も本当に必要だと思うのですけれども、みんなが歩いて、いろいろなところに行ける。自転車で行ける。

グリーンタウンというのが、シドニーとシドニーの空港の間にあって、すごくことと条件が似ている。成田と都心の間だ。そこはカーボンフリーで、今、新しいまちをつくっているのですが、本当に自転車で動ける。いろいろな施設が徒歩で行ける。オーストラリアです。そういうふうに、やっぱりカーボンフリーの観点からまちづくりしているので、本当に白井は千葉ニュータウンと違う、車社会じゃない社会にしてほしいという要望と、あと、教育の件で一つ。

教育というのはとっても大事で、その流山にも関係するのですけれども、永続的に若い世代、また、ある程度税収を落としていってくれる世代が入ってくる条件というのは、古今東西ずっと不変で、教育レベルが高いということ。そこに有名な学校がなくてもいいのです。小学校受験にとっても強い。中学受験に強い。名門の高校に行く。高校なくてもいいのですよ、大学。そうすると、これって3年、5年でできる話ではないのですが、また税収の期待できる層がどんどん。

流山というのは、勝手な私の分析で、やっぱりつくば未来都市というのがあるということが、あそこの学力が高いということが分かっているんで、ある程度の年収が高い、インカムがある世代というのが入ってくると思うのですね。なので、本当にいい子に育てるというのも大事なのですから、もっと総合的な、そういう教育の面からも考えていただきたいなと思っております。これは要望なので。

○事務局 ありがとうございます。大体いつも考えているところと近いところがあるのかなと思っています。白井市は、ニュータウンに限っては徒歩で行けると。そこじゃないところもあるので、そういう課題も当然、両面あるということは御理解いただきたい。

あと、教育については、先ほども申し上げましたが、学びとか挑戦というところは大事なところだと思っておりますので、御意見として、ちゃんと受け止めていきたいと思います。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○委員 今の御意見に附属してなのですから、歩いて行ける、いろいろなものがそろ

うとか、自転車で行けるとかという状況というのが、どうしても駅前開発。恐らく白井駅前は、一度入る予定になっているんじゃないかなかったです。そういうお話、ふわっと聞いた気がするのですが、白井駅もそうですし、西白井もそうですし、駅前のところを、それこそさっきのアンケートの若い方、高校生とか中学生のアンケートの中ですごくいっぱいあったのですが、カフェが欲しいとか、そういう。ショッピングセンターは、白井には多分、土地柄的にもできないと思うので、それは仕方ないのかな。ただ、ちょっと学校帰りに寄って、少し勉強するとか、仕事帰りにちょっと一息ついて、さあ、おうち帰って家族の食事作ろうとか、そういう場合は、やっぱり駅前にあっていいのかなというのがあるのと。

あとは、交通とかのことをいうと、どうしても白井だと北総線の話がすごくメインで出てくるのですが、それ以外にも、自転車で行けるとか、歩いて行けるといふところの部分の中に、歩道の整備を絶対に入れていただけたほうが、絶対に安心して住めるかな。

というのが、私が不動産業を、もう今は辞めてしまっているのですが、今年、ずっと不動産やっております、津田沼で仕事をしていました。津田沼というのが、元は何もない野原がメインの土地だったのが、開発をして、津田沼の南側のエリアに関しては、子育てがしやすいようなまちとして開発をされたという部分があって、私が仕事でいろいろな案内、物件案内だったり、歩いて行くこともありますし、車で案内行くこともあるのですが、見ていて思うのが、歩道がすごく広いのと、あとは、よく私たちもお客さんに対して説明していたのですが、ベビーカーを押して歩くのに、段差がないのですよ、津田沼の南側って。何かそういう、せつかく駅前を開発するとか、インフラのことでとかいうところの中に、そういう子育てをしやすい環境も結びつくのですが、入れていただけるようなビジョンがあると、すごく多分。一度、学生で外に、県外に出たとか、都内、ほかの市に出たという方たちも、子育て白井でやりたいよね、すごい住みやすいものねと言えるまちづくりというのを恐らくこの10年でやっていったほうがいいんじゃないかなというのは、津田沼のお話になっちゃうのですが、一応、私の中では、そうかなというところがありまして、これも意見になりますので、お返事は特になしで大丈夫です。ありがとうございます。

○事務局　せつかくですので、一言よろしいですか。両駅前についての開発ということは、まだ具体的には全然進んでいないです。どうするかという話は常日頃、出ていますけれども、具体的にこうしていくという話は、まだ出ていないです。

あと、カフェについては、どこからでも、いつも言われる話で、駅前にお茶飲むところがないとか。これは、なかなか民間さんがやっているところで、行政がカフェをつくってくれということ言うことはなかなかできないのですが、事あるごとに、意見交換の場があれば、伝えていきたいと思います。

その他、歩道とか、いろいろと御意見頂きましたので、それももちろん、できる限り変えていきたいとは、常日頃から思っておりますので、そこは御理解いただきたいと思えます。以上です。

○会長 ほかにはよろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

○事務局 事務局から、今の駅の話の補足で、皆様、御存じかとは思いますが、駅周辺活性化事業という、総合計画の5次後期事業にも位置づけられている事業の中で、一応、白井駅、西白井駅に関しては、何か事業化されているわけではないのですが、構想を、ビジョンをつくっていくという形で、今、未来創造戦略室という室が庁内にあるのですが、そちらが地元の地権者さん等とお話をさせて、ステークホルダーとお話をさせていただきながら、地区まちづくり協議会、小学校区まちづくり協議会と混同されやすく、恐縮なのですが、地区まちづくり協議会というものをつくっていきながら話をして、どんな機能が必要か、どんなふうにしていったらいいかみたいなのところを構想的なところを考えているというところに、今なっています。

今、委員がおっしゃられたような形の、歩きやすいというところ、割と市としてもメリットだな、メリットというか、そういったまちがいいのだらうなというところは考えてまして、私も白井駅前に住んでいますけれども、例えば白井駅前で、西白井駅前も、割と、その気はあるとは思いますが、割と車道を通らなくても駅まで歩いて行ける、学校まで歩いて行ける、公園まで歩いて行ける、スーパーまで歩いて行けるというところはあるかなと思っていますので、そういったところを対外的に、どう発信していけるかというところは、今回の構想を踏まえた計画の中であったり、計画の事業の中であったりでは、どういうふうに、それを見せるための事業だったりというところを考えていかないといけないのだらうなとは考えてございます。

以上です。

○会長 いろいろ御意見、頂戴していますけれども、ほかにはよろしいでしょうか。

私から何点か申し上げたいと思うのですが、これまでの総計審の中でも、いろいろ指摘はしてきたところ、いろいろな御意見も出てきたところではあるのですが、やっぱりいろいろな分野とか取組の、そのつながりですよね。ここをどういうふうにつくり出していくのか。これは、ただ単に政策連携って話ではなくて、そもそもまちづくりって何なのかという部分があって、先ほど新陳代謝という話もありましたけれども、まちというのは生き物なのですね。専門的な取組を幾ら足し合わせても、まちにはならないですよ。だから、いろいろなものが絡み合っているのがまちで、例えば、今日の白井でいうと、10ページのところに、出生から始まって、子育て、就学、就職、結婚、出産、子育て、生涯学習、老後、死亡という。これは要するに、このまちで生きていくという、その生の営みなわけですよ。それがライフステージというふうな形で、それぞれの段階があるわ

けですけれども、やっぱりまちづくりということで、今、問われているのは、この有機的な循環というか、つながりが今、ことごとく地盤沈下を起こして、崩れ出してきていると。だから、この循環をもう一回取り戻そうというのが、今のまちづくりの私は一番根本的な課題だと思っています。

地方創生も、よく解釈すれば、そういう資源循環というものをつくり出していこうという取組のはずなのですよ。だけれども、なかなかそのつながりという部分が意識されずに、例えば、子育てに力を入れるとか、高齢者福祉に力を入れるという、それぞれに力を入れても、まちづくりにはならないですよ。

だから、そういう意味では、このつながりをどう、もう一回、再構築できるか、取り戻せるかということが、私はまちづくりの根本的な課題で、こういうまちづくりの理念というふうなところは、私の感覚からすると、この循環をどう取り戻せるかというのが、私は一番のまちづくりの理念。だから、この循環を取り戻すために、この10年で何ができるかというのが戦略の話になってくると思うのです。

だから、そういう意味では、5ページのところに、10の大切な課題というふうにあって、これ、市民の声、拾い上げながら、ここに集約された。これ、すごくいいと思うのですけれども、ポイントは、この集約した10個の課題が、今言った有機的なつながりの中で、どういう位置づけ、どういうストーリー性を持って捉えられるかということが大事なのだと思うのです。だから、これは、ただ単に10個挙げましたじゃなくて、これが今言ったまちづくりの循環の中で、どういうふうにそれぞれが位置づけられて、この10年で何をやるのか、どこに重きを置くのか、どういう連携をつくっていくのかという、そういうふうな位置づけ、表現、立てつけにしたほうが、より生きた計画になるのかなというふうには思います。

でも、非常に大事な部分、課題の抽出はできていると思うのですけれども、そこをどうつなぐのか。そのつなぎ方も、もちろんいろいろあるわけですから、この目指すべきまちと、今6個、挙げられていますけれども、ここをもうちょっと特徴を持った形で表現できるといいのかなというふうには思います。

それから、そのことを踏まえた上で、2ページのところの白井市の主体は市民だということで、市民と共に追求していくというふうになっているのですよね。だけれども、これをどう捉えるかというのは、まちづくりというのは、先ほど申し上げたように、行政が専門性を持って全部カバーしきれものじゃなくて、例えば、カフェ一つつくるのだって、民間の力があるわけですよ。そういう市民の生活があって、民間のいろいろな営みがあって、それでまちって成り立っているわけですよ。その中で、例えば共通のこととか、市民、地域にはできない、民間ではできないことを行政が税金使ってやっているわけですよ。その税金使ってやっている部分だけを切り取って総合計画をつくっても、これは多分まちづくりにならないと。

だから、そういう意味では、先ほども言ったように、民間の部分、市民の部分、地域の部分というものをこれからどういうふうに立て直していくのかという。ここをやっぱり、どこを描くにしても、意識して描かなければいけない。

そういう中で、これから行政は、とにかく税収が減っていくわけですね。減っていく中で、行政は何をすべきなのかということを明確にうたっていないと、総合計画になっていかないと。何でもかんでも、人口も増える、税収も増えるというときは、総花の行政ができたけれども、今、総花の行政なんかは物理的には不可能なわけですから。とするならば、その立て直しの中で、行政というのはどういうスタンスでいくのかということが問われてくると。

何でもかんでも行政がやるのではなくて、私の専門分野の用語で言うと、行政というのは、これから補完行政でやっていくしかない。市民、民間、地域でできることを、どんどん行政は、いろいろなプラットフォームをつくったり、いろいろな支援をしたりして、その力というものをどれだけ引き出していけるか。その引き出す環境をつくっていくところに行行政の最大の役割を置いていく。基本から行政が何でもかんでもやる、面倒を見るというんじゃないで、まずは、その場をつくっていく。いろいろな人という力、お金という力、いろいろなものが引き出されてくるような、そういう場をつくっていくというのが、これからの行政の最大の役割になっていくということを私は明確にうたっていくべきだと思います。

そういうことをやるのが行政の役割で、逆に言うと、そういう場をどんどんつくっていくと、そこにいろいろな、それこそチャレンジャーが出てくるわけですね。そのチャレンジャーが市内外から出てくるような、まちの動きというものをつくっていくと、ただ今あるものだけで何とかしようと思っても、これは、まちづくりは広がっていく。そういう意味では、行政が今、力を入れるべきは、その場をどういうふうにつくっていくべきなのか。最近のはやりの言葉で言えば、プラットフォームのような、これ、いろいろな規模感のものがあっても、そういう場をつくっていくということを私は明確に打ち出していく。その中で、市民、民間、地域、それぞれができる力をもっと発揮していくというのが、この2ページのところにある、この市民と共に追求していくということのもうちょっと踏み込んだイメージなのかなというふうには思います。

それから、例えば、人もそうですね。市内の人、それから、市外の人というものを生かしていけるか。こうして、ある程度、想定されていると思うのですが、お金もそうですね。お金も、これは税金を使うことしか考えていない行政というのは、間違いなく破綻に向かうんですね、これからの時代。だから、分配行政だけではなくて、税金以外のお金を、どうやって白井のこのまちづくりの中に引き出してこられるか。近年、注目されている一つというのは、寄附ですね。これは、クラウドファンディングなんていうのが象徴的なように、そういう例えば、市民の中でも、こういう取組を応援したい。例えば、

白井から出て行った人でも、白井、何とか頑張ってもらいたいなといったときに、白井で面白い取組がどんどん出てきたら、直接参加はできないけれども、寄附で応援したいなという人たちが確実にいますよ。だったら、そういう層からどんどんお金を集めていくというのが、新たなお金の流れをつくるという話。だから、人だけ集めても、お金が集まらなければ、なかなか動きは広がっていかない。だから、そういう意味では、お金の広がり、税金を分配するというだけではないお金の集め方、生かし方というもの、もうちょっと言うと、新しいお金の流れというものをつくっていくということも、この中で想定すべきだと思います。同じように、そういう市内にある資源ですね。そういったものも生かしていく。

さらに、最近のキーワードでいうと、よくシェアとか共有なんていう言葉も使われて、日本ではあまり普及していませんけれども、シェアリングエコノミーなんていう。これも、いろいろな考え方がありますけれども、分かりやすく言うと、いろいろな遊休資源、空いている資源、それは、建物という意味での空いている資源もあるし、それから、高齢者の方々がリタイアして、時間はいっぱいあるよ、もっと新たなチャレンジしたいよ、そういう時間をもっと共有して、いろいろな動きというものにつないでいくという。いろいろな部分で共有できる資源というものがあると。そういうことも、さっきのプラットフォームじゃないですけども、いろいろお考えになっている、もっとチャレンジしたいというふうに思われている方がたくさんいる。

でも、いかんせん、その場がないと。場がないから、宝の持ち腐れ状態になっちゃっている。それが続いていると。だから、そういう部分、潜在的な部分というのをどう引き出せるかどうかということが大事になってくるかなというふうには思います。そのための発想とか、工夫しどころというのは、これは、本当にいろいろな考え方があるので、いろいろなものを見つけた。あるいは、先行事例も研究しながらやっていくしかないと思うのですけれども、そういう部分ですよ。

一連申し上げれば、例えば、アンケート結果を見ると、高校生は、白井に住み続けたいかという、半分ぐらいは住み続けたくないという結果なのですよ、若い世代。それはなぜかって、多分いろいろ理由あると思うのですけれども、一番のポイントは、働く場がないからですよ。通勤する。長い通勤するのだったら、もっと利便性の高いところに越したほうがいいねというふうになって、18歳とか、あるいは二十歳前後の層が、どんどん抜けていってしまう。でも、それは、働くということは、もちろん学びの場ということも含めてですけども、そういうところがある。だから、その辺をどんなふうに考えていくのか。もちろん、例えば高校に進学する、大学に進学するといったときに、どうしても市外に出ていかざるを得ないという部分はあると思うのですけれども、そういう、さっき言った循環ということを考えれば、若者たちは多分、一旦出るのですよ、白井から。出るけれども、戻ってこられる、あるいは、戻ってきたいというふうに思える戦略をつくらなきゃ駄目なのだと思うのですよね。

だから、そのためには何が必要なのかという。もちろん、白井の魅力というものをどんどん教えていくということも大事ですけれども、例えば働くということであれば、市外で働かざるを得ないかもしれない、都内に通勤しなければいけないかもしれないけれども、例えば近年言われているような、多様な働き方とかいうことを考えれば、都内で働くことが中心だけでも、例えば副業でとか、あるいは、プロボノでとかいうふうな形で、白井にできることというのをもっと見つけていく。そういう副業セミナーなんていうのを白井でもっとやっていったら、通勤している人たちでも、白井で何かできることをもっと見つけられますよ。それが働くということに対する支援なのだと思うのですよね。

ここに、さっきの10個の中に、企業の誘致・雇用の創出とか産業の振興というようなことが挙がっていますけれども、今言ったようなことが想定されているかなのです。つまり、さっき教育のチャレンジということありましたけれども、白井でもっと豊かに働きたい、白井でもっと起業したい。今、起業のスピードってすごいですよ。思いもよらない仕事というのが、どんどんつくられていると。だとすれば、その場を白井でどんどん提供して、支援をして、この白井からどんどん仕事生まれていくようにすると、また人の流れというのも変わってくるという。

そういう、これもある種の戦略だとは思いますが、どういうふうにしたら、人とかお金の循環というものがつくり出されていくのかという、ここを念頭に置きながら、フレームと今後の肉付けというものをぜひ、もうちょっと詰めていただけたらなというふうに、ちょっと長くなってしまいましたけれども、大事なポイントかと思いますので指摘させていただきたいと思います。

特には、いかがでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。今までの考えだと、どうしても課ごとの縦割りとかなになっちゃって、その連携の部分というのが、おろそかで、プラスどういう正のスパイラルを生み出すかというところというのが、やっぱり課題にはなるという認識であります。

また、先ほどの産業の部分で、雇用創出とかですと、最近の技術の進展で、自宅でも働ける部分というのは多く出てきて、また、市民のワークショップでも、リスキリングみたいな言葉が出てきていまして。

また、結構ほかの自治体ですと、成功例として、要はメタバースを使って、ドローンの試行をメタバース上でやるに当たって、その空間を創り出すパートみたいなものを自宅でやっているとか、そういった部分で、新たなそういった働くものというのが生まれてきているというのも事実なので、ある意味チャンスなのかなという。そこは市も把握しておりますので、その点の要素を、こちら今、骨子で肉がついていないのですけれども、そこがうたっていけたらなというふうには考えております。

○事務局 今、御説明を差し上げたところですが、補足で、私が企画の方で官民連携等々の担当もしているところで補足をさせていただくという形で。会長がおっし

やっていただいたような形で、プラットフォームをつくっていくというところで、例えば、今5次でやっている事業でいくと、人の交流、市内の交流というところにあるかと思えますけれども、しろいまっちみたいなプラットフォームもあるかと思うのですけれども、あとは、今回の計画の骨子の中で、公民連携という話が出ていますけれども、官民の連携のところの部分でいいますと、今、包括連携協定という形で、企業の皆さんに御協力をいただくような形の取組というのが白井市内でも増えています。そこではコンソーシアムを組んで、民間事業者さん、包括連携協定を結んでいるところも、結んでいないところも含めて、協力していただきながら、市民サービスの向上を図っていったりというようなまちづくりの観点からの取組を進めていったりというところが主でやっている部分もございますので、そういったエッセンスはできるだけ、総合計画、肉付けしていく中で、見える形にできたらなどは考えてございます。

また、併せて、会長のほうからお話しいただいていた、お金の面というところも、市長のほうからも話が実際出ていまして、分かりやすいところでいうと、ガバメントクラウドファンディングでしたり、あとは、今年度末までとなっていますけれども、企業版ふるさと納税みたいな寄附の制度もございますので、そういったものはうまく活用しながら、それを先ほどの包括連携協定なんかもそうですけれども、官民連携の流れから寄附につながるみたいなところもありますので、そういったところも要素として、エッセンスとして、そういったものは総計の中に組み込んでいければなどは考えてございます。

プロボノというお話も、まさに会長にさせていただいたのですけれども、副業人材みたいなところの活用というのも、昨年度半ばぐらいから本年度にかけて、市のほうで取り組んでいるというところもありまして、そういったところの要素も併せて入れていければなど考えております。

以上です。

○会長 ぜひ、そういう既に動かれていること、その10ページにある、この有機的なこの図ですよ。これをうまくもうちょっと可視化して、今やっている取組、こういうところにあるのだというふうな情報も。どうしても分野別になっちゃうので、全体像が見えづらいのですよね。ここをうまく、こういうつながりの中でやっているのだと、こういう場を提供しているのだと、こういう場を生かしていけば、もっとこういう各方面がもっとつながれるのだという、こういういろいろなものを引き出していけるような何か見せ方というものを、ぜひ工夫していただけるといいのかなというふうに思いました。

あと1個だけ、先ほど申し忘れたのは、先ほどポストニュータウンと申し上げましたが、ポストニュータウンの視点というのは、先ほどからお話出ている、私はコミュニティーだと思っているのです。これは、単一のコミュニティーじゃなくて、いろいろな規模感、隣近所から始まって、広域連携とか、いろいろな形も含めた、いろいろなコミュニティーの形というものをつくっていく。まちづくり協議会というのは、私はその中の一

つの大事な手法、仕組みだと思っているのですけれども、そういうコミュニティーの中でつながっていく。それこそ、歩いて回っていけるという、コンパクトシティのもっと地域版のようなものですね。そういうふうな形で、ちょっとしたところで買物ができる。ちょっと歩いたところで何か相談できる場所があるという、何かそういうふうな、それぞれの地域ごとのうまいつながりというものをつくっていかどうかというのが、多分、そのポスト開発の中での、どちらかというと成熟に向けた取組の私は基盤になるのかなというふうに思いますので、コミュニティーという視点も、もうちょっと何か検討いただけるといいのかなというふうに思いました。

一応、予定は5時までとなっているのですけれども、ほかに御意見等があれば、最後、伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

はい。

○委員 すいません、長くなって、1点だけ、先ほど人材活用ということで、うちも子供が3人とも出ていますので、大学4年生なので、いろいろ先ほどもエピソードをお話したのですが。

うちの家内は、子供を面倒見たいと言っているのですよね。小さい頃から。教育関係の方もいらっしゃるのですけれども、夏休みが終わると、いろいろな病気を持って帰ってくるのかいって、これは保育園もそうです。多少熱があったり、多少病気というのですかね、持っていても、会社に行かなきゃいけないので預けちゃうのですよね。途中で熱が出たら迎えに来てくださいと。そういう、放課後ルームとかあるのですが、1対1で、親御さん同士で子供を預かる仕組みなんかを、人材としてシルバー人材を活用されているようですが、シルバーという言い方は何なのですが、子育てが終わった、部屋もある、短期的に1日だけお預かりするような人材活用もあってもいいのかなと、僕は、自分の家なら特別なかもしれませんが、お子さんの面倒を見たい。自分が苦労したので、今、一生懸命子育てしている人のお手伝いをしたいというのが、うちの家内の意見なのですが、市役所として、行政として、そういうことは可能かどうかかなのですよね。すぐ取組できるのであれば、そういう窓口つくっていただければと思います。

以上です。

○事務局 制度を今、明確に分からないのですけれども、詳細までは分からない、同様な趣旨のようなことは取り組んでいるかなと。例えば、何か研修か何かを受けて保育をできるように。簡単に知らないお子さんを預かるということは、できないのですけれども、一定の研修か何かを受けたら、そういうことができるよという制度は、たしかあったかと思うのですけれども、今、すいません、制度が細かくは分かりません。

○委員 こちらで調べます。ありがとうございます。

○事務局 すいません、でも、制度自体はあるのですけれども、認知されていないということはPR不足だと思いますので、その辺りは周知ができるように、市としても努力して

まいりたいと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、非常に多岐にわたって貴重な御意見、頂戴できましたので、この部分については、また今後の検討の中に生かしていただけたらなというふうに思います。

そろそろ時間ですので、今日の段階では、一応この骨子（案）における議論については、ここまでというふうにさせていただいて、また次回につないでいけたらと思います。

（４）その他

○会長 それでは、議題の（４）その他ということで、事務局のほうからお願いいたします。

○事務局 一番最後に、主なスケジュールというものをつけさせていただいてまして、これ、前回の審議会でお渡ししたものの更新バージョンとなっております。

次回が10月に審議会を行う予定なのですが、その際に、人口推計報告や住民意識調査の改めて報告書という形で出来上がる予定ですので、そちらを御説明させていただけたらと思っております。

また、以前、年間の審議会の開催日程をお渡ししてございまして、第2回の審議会が、会長からも通知がありましたけれども、10月の23日水曜日を予定しております。その中では、10時からというふうに記載させていただいているところなのですが、9時半から11時半、2時間ぐらいに変更させていただけたらと考えております。また正式な通知につきましては、改めて御連絡させていただければと思っております。

以上となります。

○会長 それでは、今後の流れについては、この一番最後の資料のほうで改めて御確認をいただいて、次回のこの審議会が10月の23日の午前9時30分からということになっておりますので、よろしくお願いをいたします。

そのほか、最後、皆様のほうから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、第1回の総合計画審議会は、以上で閉会とさせていただきたいと思います。どうもお疲れさまでした。